施工説明書

INAX

洗面化粧台
ラルージュ　システムタイプ

●カウンター
ボウル一体カウンター:GS-600N
洗面器別体カウンター:GM-600N

●ベースキャビネット
扉タイプ:GSN-756・806・856・906
引出タイプ:GSH-756・806・856・906・956・1006・1056・1156・1206
フルスライドタイプ:GSFH-756・806・856・906・956・1006・1056・1156・1206
GMFH-756・806・856・906・956・1006・1056・1156・1206
ステップスライドタイプ:GSCH-756・806・856・906
カラクリスライドタイプ:GSNO-756-A・806-A・856-A・906-A

●サイドベースキャビネット
扉タイプ:GSN-256L(R)・306L(R)・456L(R)・
引出タイプ:GSH-156・256・306・456
ランドリータイプ:GSDH-456
カラクリスライド用:GSNO-156L(R)-A・256-A・356-A・456-A

※スライドレールがソフトサイレンス仕様の場合は、キャビネット品番末尾に−Aが付きます。
※カウンター天板高さ750mm仕様の場合（オプション、標準は800mm)キャビネット品番末尾に−Dが付きます。

施工される前に

●施工に際しては必ずこの施工説明書に従い正しく施工してください。
※この施工説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で故障を生じた場合は、商品の保証を致しかねますので十分ご注意ください。
※水栓金具、電気温水器については、それぞれ付属の施工説明書に従い正しく施工してください。
●「保証書（取扱説明書裏表紙）」は貴店名、取付日を忘れずに記入の上、必ずお客さまにお渡しください。
●施工段階での欠陥工事は、製造物責任法に基づき、二次責任が問われる場合がありますことを十分にご認識いただき、お客さまが安全で快適にご使用できるようご協力ください。
●付属部品の内容と数量が合っていることを確認してください。

■付属部品

カウンター

品　番	GM-600N	GS-600N
カウンター固定ねじ（トラスφ4.0×16mm）	8本	
取扱説明書・施工説明書	各1部	

ベースキャビネット

	扉タイプ	引出タイプ	フルスライドタイプ	ステップスライド	カラクリスライド
品　番	GSN-756 GSN-806 GSN-856 GSN-906	GSH-756 GSH-806 GSH-856 GSH-906 GSH-956 GSH-1006 GSH-1056 GSH-1156 GSH-1206	GS(M)FH-756 GS(M)FH-806 GS(M)FH-856 GS(M)FH-906 GS(M)FH-956 GS(M)FH-1006 GS(M)FH-1056 GS(M)FH-1156 GS(M)FH-1206	GSCH-756 GSCH-806 GSCH-856 GSCH-906	GSNO-756-A GSNO-806-A GSNO-856-A GSNO-906-A
固定ねじ（トラスφ4.0×50mm）	2本	2本	2本	2本	—
固定ねじ（ワッシャー付なべφ4.5×60mm）	—	—	—	—	6本
キャビネット連結ねじ（トラスφ4.0×25mm）	—	—	—	2本	—
取っ手	2個	756、806:3本 856～1206:4本	756、906:2本 956～1206:4本	1本	1本

サイドベースキャビネット

	扉タイプ	引出タイプ	ランドリータイプ	カラクリスライド
品　番	GSN-256L(R) GSN-306L(R) GSN-456L(R)	GSH-156 GSH-256 GSH-306 GSH-456	GSDH-456	GSNO-156L(R) GSNO-256-A GSNO-306-A GSNO-456-A
固定ねじ（トラスφ4.0×50mm）	2本	2本	2本	2本
キャビネット連結ねじ（トラスφ4.0×25mm）	2本	2本	2本	2本
取っ手	1本	156:1本 256～456:2本	1本	156:なし 256～456:1本
棚板	1枚	—	—	—
棚板受けダボ	4個	—	—	—
網かご	—	—	1個	—

トールキャビネット

	鏡扉タイプ	引出タイプ	姿見タイプ	ランドリータイプ
品　番	GSS-156ML(R)	GSS-256L(R) GSS-306L(R) GSS-456L(R)	GSS-306ML(R)	GSS-306DL(R) GSS-456DL(R)
固定ねじ（ワッシャー付なべφ4.5×60mm）	—	6本	4本	6本
固定ねじ（皿φ4.5×60mm）	4本	—	—	—
連結ワッシャー	4個	—	—	—
化粧キャップ	4個	—	—	—
固定ねじ（トラスφ4.0×50mm）	1本	—	—	—
キャビネット連結ねじ（トラスφ4.0×25mm）	—	2本	2本	2本
棚板	4枚	2枚	2枚	2枚
棚板受けダボ	16個	8個	8個	8個
網かご	—	—	3個	1個
タオル掛	1本	1本	—	1本
S字フック	2個	—	—	—
取っ手	1本	2本	—	1本

ミドルキャビネット

	標準タイプ	鏡扉タイプ
品　番	GSK-252L(R) GSK-302L(R) GSK-452L(R)	GSK-252ML(R) GSK-302ML(R) GSK-452ML(R)
固定ねじ（ワッシャー付なべφ4.5×60mm）	4本	4本
タオル掛	1本	—
棚板	2枚	2枚
棚板受けダボ	8個	8個
バックパネル	1枚	

ランドリーキャビネット

品　番	LCVKO-652 LCVKO-752
固定ねじ（皿φ4.5×60mm）	4本
連結ワッシャー	4個
化粧キャップ	4個

アッパーキャビネット

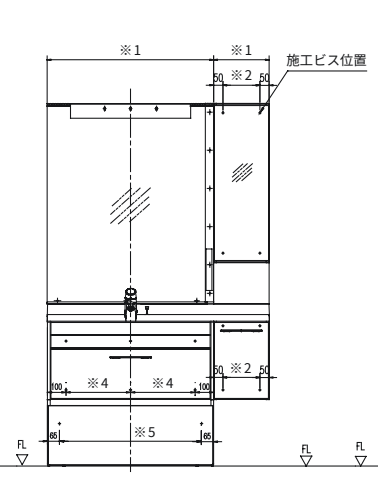
	ベース用		トール用
品　番	GSU-154C GSU-254C GSU-304C GSU-454C GSU-654C GSU-754C GSU-804C GSU-854C	GSU-904C GSU-954C GSU-1004C GSU-1054C GSU-1104C GSU-1154C GSU-1204C	GSU-156C GSU-256C GSU-306C GSU-456C
固定ねじ（ワッシャー付なべφ4.5×60mm）	4本	6本	4本
キャビネット連結ねじ（トラスφ4.0×25mm）	154～454のみ2本 654～854:なし	—	2本

対面収納キャビネット

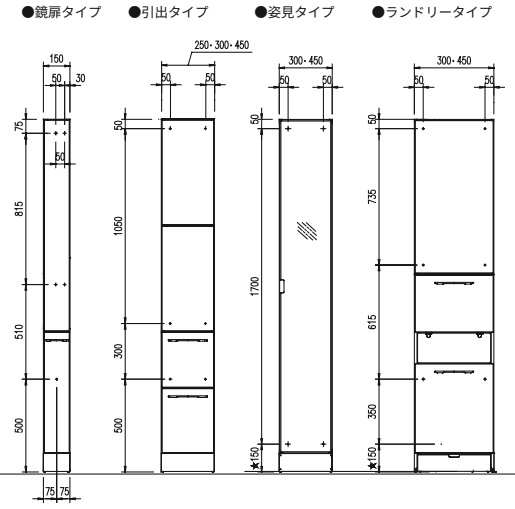
	トール	ベース
品　番	LCVS-372SA LCVS-372SAN	LCVB-752SA
棚板	2枚	2枚
棚板受けダボ	8個	8個
固定ねじ（ワッシャー付なべφ4.0×50mm）	—	4本
固定ねじ（ワッシャー付なべφ4.5×60mm）	4本	—
キャビネット連結ねじ（トラスφ4.0×25mm）	3本	—

■寸法図（単位:mm）

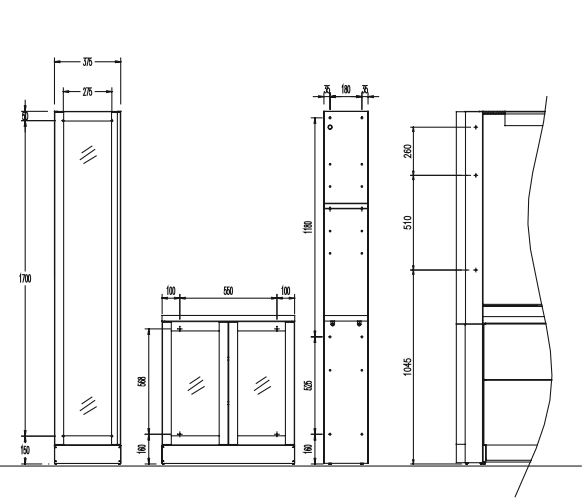
●カラクリスライドタイプ



トールキャビネット
●鏡扉タイプ　●引出タイプ　●姿見タイプ　●ランドリータイプ



ランドリーキャビネット　対面収納キャビネット



L型収納パック　スキマユニット

GSS-156ML
※Rタイプは左右対称

GSS-256R(L)
GSS-306R(L)
GSS-456R(L)

GSS-306MR
※Lタイプは左右対称

GSS-306DR(L)
GSS-406DR(L)

LCVKO-652
LCVKO-752

LCVS-372SA
LCVS-372SAN

LCVS-752SA

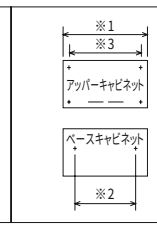
LCVS-2513SE
LCVS-2517S

GSA-156SL(R)

［注］図の取付位置は、カウンター高さ800mmの場合です。
カウンター高さが750mmの場合は、すべての取付位置が50mm低くなります。
カウンター高さが800mmの場合は、取付位置がすべて50mm高くなります。

※ミラーの施工位置については、ミラーの施工説明書をご覧ください。

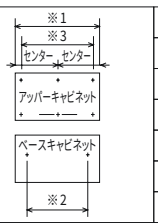
施工ねじ位置



▲上記図面仕様寸法

間口									
※1	150	250	300	450	650	700	750	800	850
※2	0（1ヶ所）	150	200	350	—	—	550	600	650
※3	50	150	200	350	550	600	650	700	750
※4	—						550	600	650
※5	—						620	670	720

施工ねじ位置



▲上記図面仕様寸法

間口							
※1	900	950	1000	1050	1100	1150	1200
※2	700	750	800	850	900	950	1000
※3	800	850	900	950	1000	1050	1100
※4	700	—					
※5	770	—					

※4、※5はカラクリスライドタイプのみ

安全のために必ずお守りください

ここでは施工に際して守らないと人身事故や、家財の損害に結びつく注意事項を挙げています。
施工前にこの項目をよくお読みいただき、正しく施工してください。

●用語および記号の説明

⚠警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が損傷を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
⃠	**「　禁　止　」**を表します。
⃠	**「分解禁止」**を表します。
❗	**「必ず行うこと」**を表します。

⚠ 警告

●修理技術者以外の人は絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。
※ケガや故障が生じる恐れがあります。
●ストーブやヒーターなど熱を発生するものの近くに設置しないでください。
※変色や変形、火災をおこす恐れがあります。

⚠ 注意

●この説明書に記載されている以外の壁仕様（ALC壁等）の場合は必ず壁の施工のやり直しを行ってください。
※キャビネットの取付強度が保てず落下する恐れがあります。
●スライド蝶番の調節後は必ずAねじ、Cねじ、取付ねじが固く締め付けられていることを確認してください。
※締付けが不足しますと蝶番がゆるみ、扉の外れ、落下によりケガをする恐れがあります。
●温水を逆に配管しないでください。
※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをすることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。
※感電やショートして発火することがあります。
●電源は必ず専用のコンセントからお取りください。また、コード類を束ねたまま使用しないでください。
※発熱の恐れがあります。
●浴室内などの高温多湿な場所や水が浸る可能性がある床面には設置しないでください。
※木部が水を含んで腐ったり、漏電や感電の恐れがあります。

お願い

●直射日光が当たる場合は必ずカーテンなどでさえぎってください。また、スポット照明や殺菌灯を直接当てないでください。
※変色や変形の原因になります。
●不陸が5mm/2mを超える場合は必ず壁の施工のやり直しを行ってください。
※不陸があるまま施工するとキャビネットがひずむ場合があります。
●洗面器表面は傷付きやすいので次の点について注意して施工してください。
・キャビネットや工具などの固い物を洗面器上に落としたり、乗せてひきずったりしないでください。
・洗面器上に乗らないでください。
※洗面器に傷が付くと補修しても完全に元の状態には戻りません。
●酸性、アルカリ性および塩素系の洗剤類、ベンジン、シンナー、ラッカー、アルコール等の溶剤や油類を使用して本体をふかないでください。
※変色や変形の恐れがあります。

施工前の確認

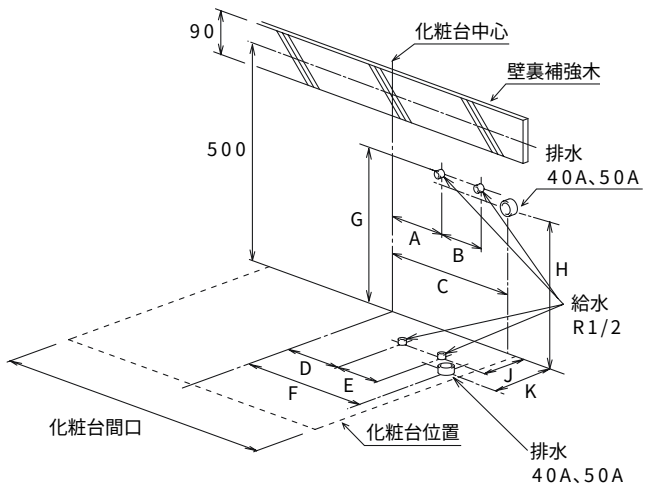
電気温水器・足元温風器については、付属の施工説明書をご覧ください。

1. 給水、給湯の確認
給水・給湯の条件、水栓金具の設置条件は別紙説明書（水栓金具に付属）をご覧ください。

2. 配管工事の確認
給水、給湯管および排水管が所定の位置に指定の給排水管仕様で取り出してあるか確認してください。

⚠ 注意

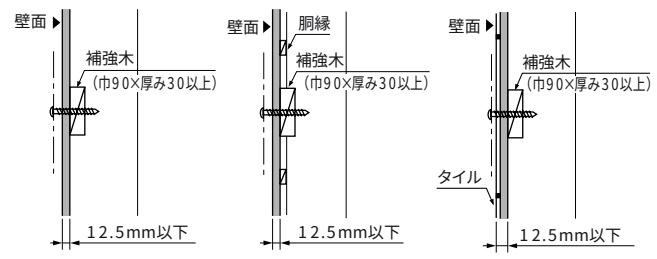
湯水を逆に配管しないでください。
※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをすることがあります。



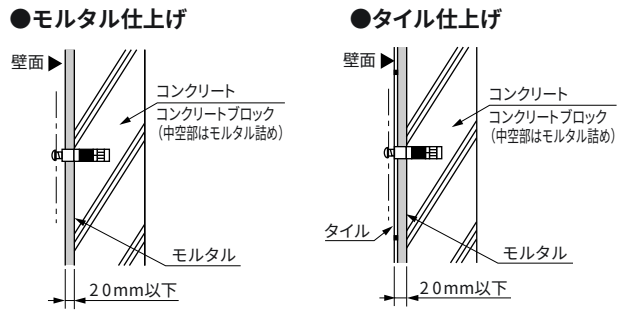
●給水・給湯管の取出位置は設計用図面集をご参照ください。

3. 壁面工事の確認
〔壁材、下地材の確認〕
●キャビネットの取付可能な壁面は下図の
（1）乾式壁3種
（2）湿式壁2種　の以上5種類の壁面のみです。
〔補強木、仕上げ材の厚みの確認〕
●キャビネットの取付けには、乾式壁の場合、壁面に補強木（幅90mm×厚み30mm以上）が指定の位置（寸法図参照）に必ず必要です。あらかじめ建築施工の際に補強木を設けてください。直接、壁の仕上材にキャビネットの取付けはしないでください。
●補強木の柱や、間柱への取付部材（ねじ等）は、キャビネットの固定強度（乾式壁の図を参照）と同等以上になるように種類､数を選定してください。
●乾式壁の場合は、補強木手前の仕上げ材は取付ねじを補強木に届かせるため必ずトータルの厚みで12.5mm以下のものを用いてください。
●湿式壁の場合は、AYボルトをコンクリートに届かせるため、モルタル、タイルの仕上げはトータルの厚みで20mm以下としてください。また、壁本体がコンクリートブロックの場合は、中空部をモルタル詰めにしてください。
●この説明書に記載されている以外の壁仕様（ALC壁等）の場合は必ず壁の施工のやり直しを行ってください。

（1）乾式壁



（2）湿式壁



※壁本体がコンクリートブロックの場合は､中空部はモルタル詰めしてください。
※AYボルト品番:KB-4X60T（AY）（丸頭＋ボルトφ4×60mm､2本入り)の取付け穴は、穴径7.5mm､穴深さ60mm以上 です。

4. 床面の確認
●設置する床は水平で著しい凹凸や不陸がないことを確認してください。
●床面は強固でグラつき、たわみが生じないことを確認してください。
※キャビネットがグラついたり、取付精度（収まり）が悪くなる恐れがあります。
〔壁の不陸について〕
●不陸が5mm/2mを超える場合は、必ず壁の施工のやり直しを行ってください。（キャビネットを壁に当て、壁とのすき間が5mm以下であることを確認してください。）

施工方法

お願い

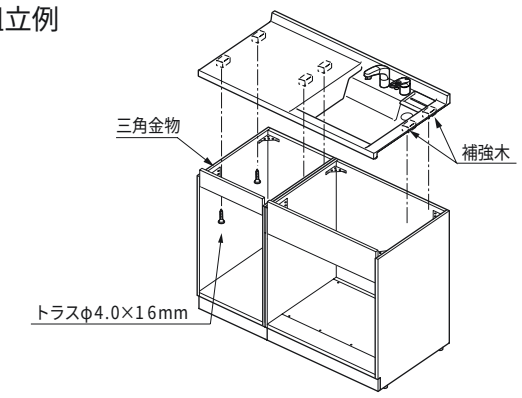
キャビネットの扉、アルミ枠タイプの扉は表面にキズが付きやすいため、取扱いには十分注意してください。

1. ベースキャビネットの設置

ワンポイント

●ベースキャビネットと壁の間にトールキャビネットを設置する場合、トールキャビネットを先に壁に固定してください。
※ベースキャビネットを先に固定すると間口に余裕がなくなり、トールキャビネットを取り付けられなくなる恐れがあります。
●キャビネットを壁に固定する際、扉がじゃまになるときは、扉を外してねじ固定することもできます。
●キャビネットの扉着脱方法は、後述の「扉の取付方法」「扉の取外方法」をご覧ください。
●ねじ固定後は、必ず扉を取り付けてください。

●組立例



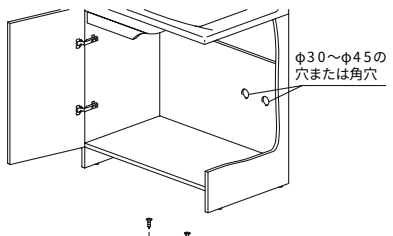
1）ベースキャビネットの給水管・排水管穴あけ

2ページの「施工前の確認　2.配管工事の確認」にて指示した給水・給湯管の位置から給水・給湯管を化粧台に引き込むために、化粧台の背板部にφ30～φ45mmの穴または角穴をカッターナイフ等であけます。

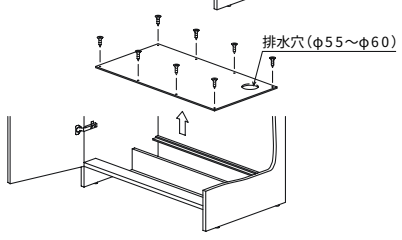
※底板は着脱式になっています。ねじを外して底板を取り出し、穴あけをしてください。
（引出タイプの場合、着脱板を斜めにしてレールを回避してください。）

〔壁給水の場合〕

●給水穴

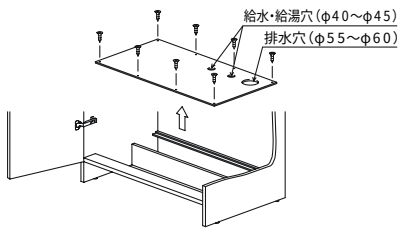


●排水穴



〔床給水の場合〕

●給水穴・排水穴



2）足元温風機・フットスイッチの設置

足元温風機・フットスイッチを取り付ける場合、キャビネット設置前に加工作業が必要です。それぞれの機器の施工説明書をご覧ください。

3）フィラー・台輪・スキマユニットの取付け

レイアウトによりフィラー、台輪、スキマユニットを取り付ける場合は、キャビネットの壁固定前に取り付けてください。フィラー、台輪、スキマユニットの取付方法は、それぞれの施工説明書をご覧ください。

4）キャビネットの設置

（1）扉、引出しを取り外します。

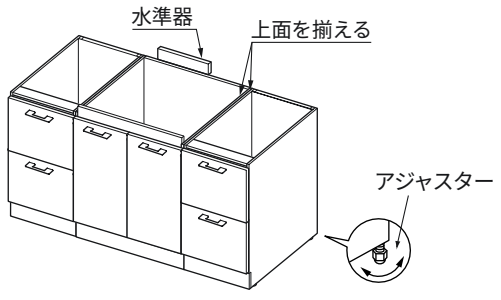
※取り外し方は6～8ページを参照ください。

（2）キャビネットのレイアウトを確認し、仮設置します。
床の水平が出ていない場合は、アジャスターで調整し水準器で確認しながら水平を出してください。

※水平が出ていないと、キャビネットや扉に段差が生じます。

※キャビネットの上面がそろうように設置してください。

※複数のキャビネットを設置する場合は、側壁に接するキャビネットから順に設置してください。

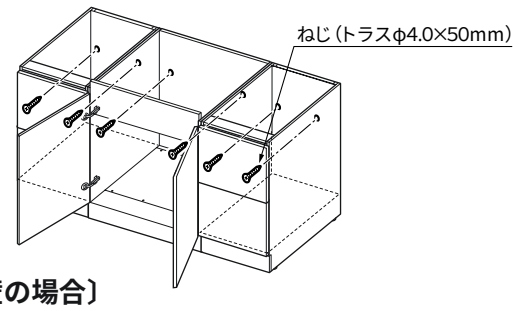


5）キャビネットの壁固定

仮設置した各キャビネットの内側より、ねじで壁に固定します。

●乾式壁の場合は付属のねじ（トラスφ4.0×50mm）50mm）をご使用ください。

●湿式壁の場合は、別途手配のＡＹボルトＫＢ－60Ｔ（ＡＹ）をご使用ください。



〔乾式壁の場合〕

キャビネットを指定位置に設置し、付属のねじでキャビネット背板のねじ穴から壁面に固定します。

〔湿式壁の場合〕

（1）ＡＹボルトの位置を確認し、位置出しをします。

（2）壁にφ7.5の下穴をあけ、切粉をよく取り除きます。

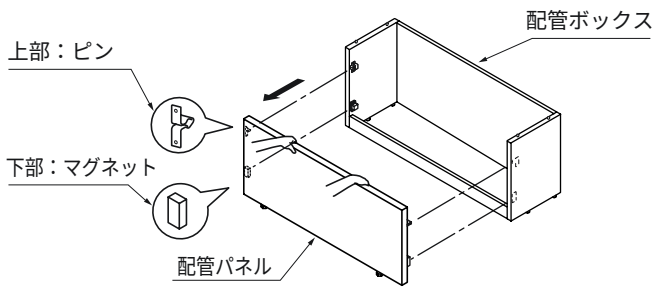
※下穴は電動ドリルを使用し正確にあけてください。

（3）ＡＹボルトを挿入してゴム筒を押さえてボルトを抜き取ります。

（4）キャビネットを壁面に当て、キャビネット背板のねじ穴から壁面にボルトで固定します。

■カラクリスライドタイプ　ベースキャビネットの場合

（1）配管ボックスの配管パネルを外します。
配管パネルの上部を両手で持って、手前に引きます。上2ヶ所のピンと、下2ヶ所のマグネットが外れます。

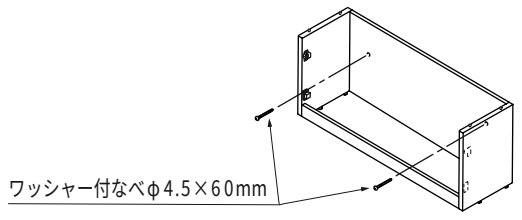


お願い

配管パネルの取付け・取外しの際は、無理な力で引っ張ったり、たたいたりしないでください。

※キャッチやピンが破損し、取付け・取外しが困難になる恐れがあります。

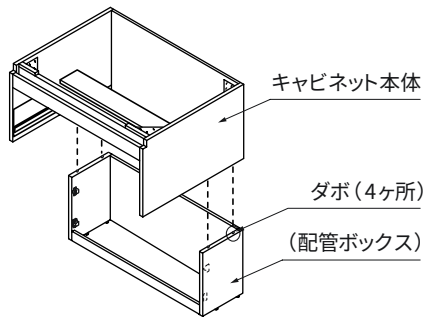
（2）配管ボックスを指定位置に設置し、付属のねじで配管ボックス背板のねじ穴から壁面に固定します。
（背板2ヶ所）



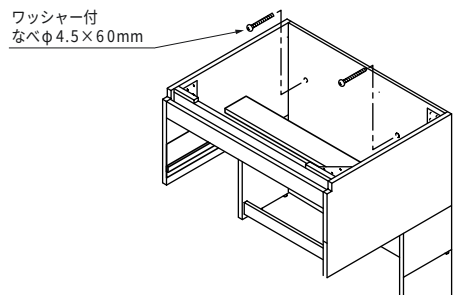
（3）キャビネット本体から引出しを取り外します。

※引出しの取外し方については、7ページの「引出しの取付・取外し方法（Bタイプ）」をご覧ください。

（4）配管ボックスのダボにキャビネットをはめ込みます。

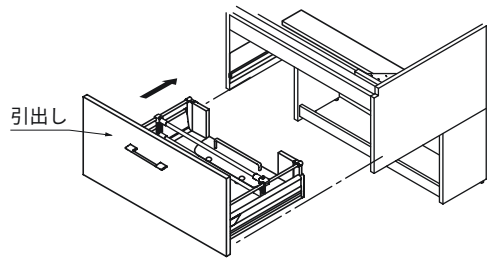


（6）付属のねじで、キャビネット本体背板のねじ穴から壁面に固定します。



（7）止水栓、排水トラップの取付け後、キャビネット本体に引出しを取り付け、レールをロックします。

※引出しの取付け方・レールのロック方法については、後述の「引出しの取付・取外し方法」をご覧ください。



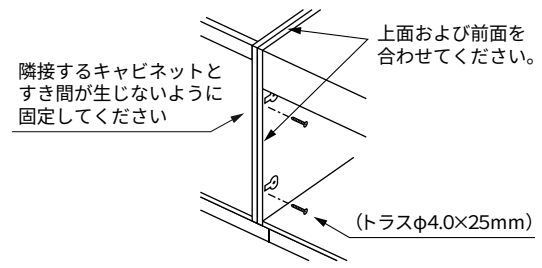
⚠ 警告

引出しを取り付ける際は、必ずレールをロックしてください。

※引出しの収まりが悪くなり、落下する恐れがあります。

6）キャビネットの連結

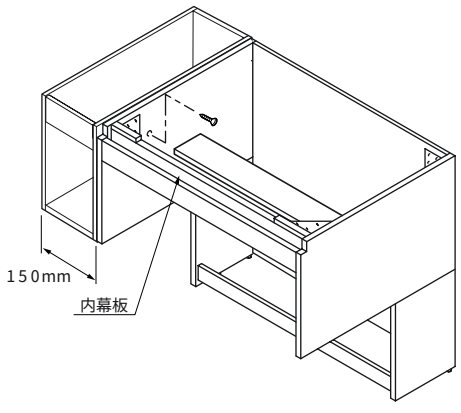
隣接するキャビネットを連結ねじ（トラスφ4.0×25mm）で固定します。
（蝶番の下方、上下2か所またはレールの上方、上下2ヶ所）



■カラクリスライドタイプの場合

カラクリスライドは引出し奥行きを2段階に変更できます。（8ページ参照）奥行きを変更した場合にも、連結ねじが見えないよう、サイドベース側からねじ固定してください。

※サイドベースの間口が小さく、電動ドライバーが入らない場合は下図に示す、三角金具の下15mmの位置で連結してください。

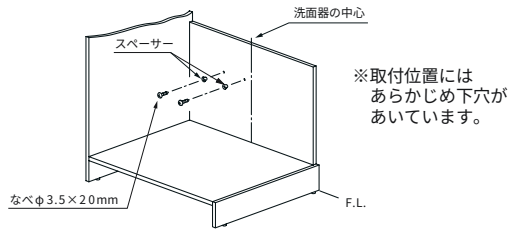


7）電気温水器・ほっとエクスプレスの取付け

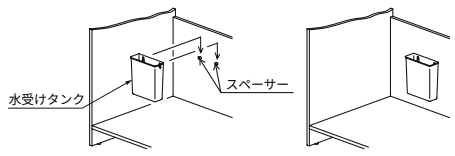
電気温水器・ほっとエクスプレスの施工は、それぞれの機器に同梱されている施工説明書を参照して行ってください。

8）水受けタンクの取付け（ホース付水栓金具のみ）

①キャビネット背板のガイド穴2ヶ所に、付属のねじ（なべφ3.5×20mm）でスペーサーを取り付けます。



②スペーサーに水受けタンクの丸穴の部分を差し込んで、タンクを下に降ろし、スペーサーの凸部に引っ掛けて設置します。

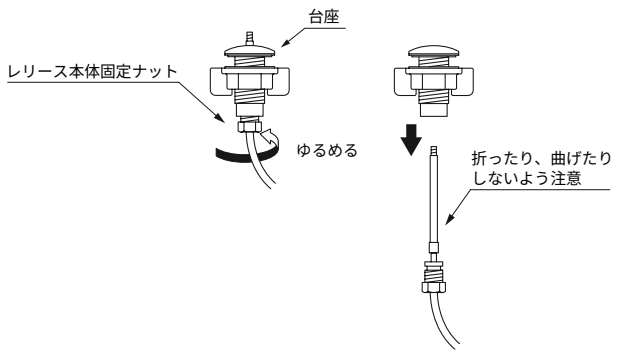


9）水栓金具の取付け

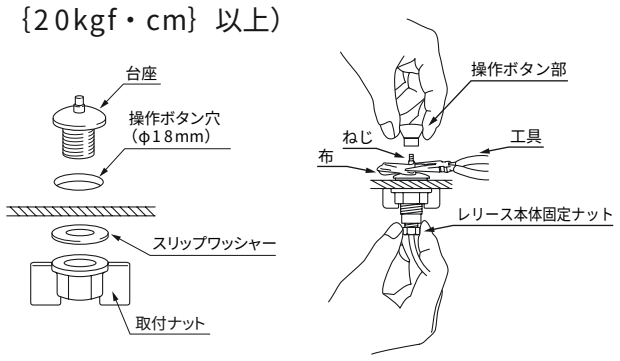
水栓金具の取付けは、水栓金具の施工説明書をご覧ください。電気温水器が取り付くプランでは、給排水の取付方法が通常と異なります。
電気温水器の施工説明書を参照して施工を行ってください。

10）排水器具・操作ボタンの取付け

①レリース本体固定ナットをゆるめ、台座からレリースを外します。
※レリース先端を折ったり曲げたりしないでください。



②カウンター上の操作ボタン穴（φ18mm）に台座を手締めで固定します。
③台座にレリース本体を差し込んだら、レリース本体から軸を引き出し、先端のねじにボタンを取り付けます。軸が空回りしないよう、指かラジオペンチ等の工具で固定し、ねじが完全に隠れるまでボタンを締めてください。（締付トルク2N・cm｛20kgf・cm｝以上）

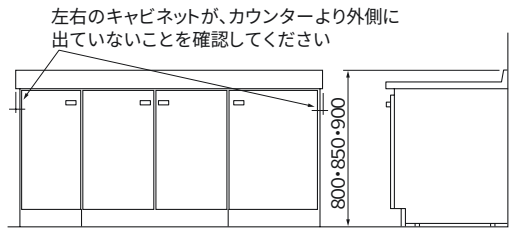


※軸を工具で固定する場合は、軸がキズつかないよう、ウエス等を巻いて保護してください。
※ ねじには乾式の接着剤（赤）が塗布してあります。ボタンを取り付けると接着剤が硬化し始めますので、一度締めたボタンは外さないでください。
④洗面ボウルの排水口に排水器具本体を取り付け、排水栓を設置します。

> **⚠ 注意**
> **● 強く締めすぎないようにしてください。**
> ※排水口部分が破損し、漏水を引きおこす恐れがあります。
> **● ナット類は手でしっかりと締め付けてください。**
> ※締付けが不十分だと漏水を引きおこす恐れがあります。

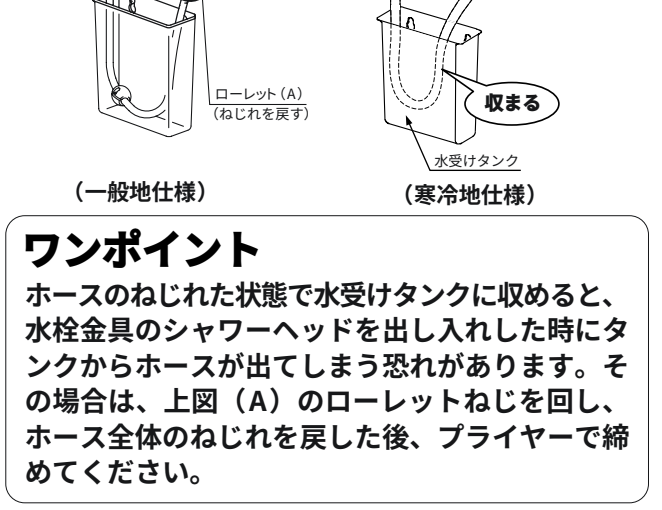
12）カウンターとキャビネットの固定

①カウンターを設置し、キャビネットとの収まり、カウンター高さおよび水平を確認します。

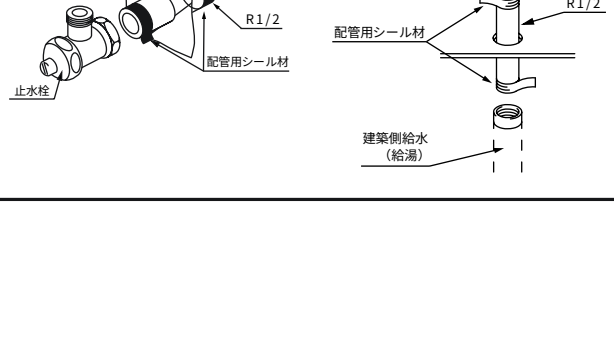


※カウンターバックガード高さは850mmのほか
800mm、900mm（台輪取付け）があります。

②カウンターキャビネットに固定する前に、カウンターに同梱されているスポンジパッキンを側板上に貼り付けます。
ベースキャビネットのみ設置の場合 ……2ヶ所
ベースの片側にサイドベース設置の場合 …3ヶ所
ベースの両側にサイドベース設置の場合 …4ヶ所



③ベースキャビネットの内側下方より、ねじ（トラスφ4.0×16mm）でカウンター裏の補強木に固定します。
④カウンター取付後、水栓金具のホースをタンクに収め、シャワーヘッドを2、3回出し入れしてホースがタンク内に収まることを確認してください。
※ホースがタンクに収まりにくい場合は、銅管の角度を調節してください。



（一般地仕様）　（寒冷地仕様）

> **ワンポイント**
> **ホースのねじれた状態で水受けタンクに収めると、水栓金具のシャワーヘッドを出し入れした時にタンクからホースが出てしまう恐れがあります。その場合は、上図（A）のローレットねじを回し、ホース全体のねじれを戻した後、プライヤーで締めてください。**

13）止水栓の取付け

止水栓はメンテナンス・流量調整のため、必ず取り付けてください。※止水栓は別売品です。

〔壁給水の場合〕　〔床給水の場合〕

14）排水トラップの取付け

●洗面器下の排水トラップを図のように取り付けてください。

> **⚠ 注意**
> **横引き管が逆勾配にならないように取り付けてください。**
> ※排水能力が悪くなります。

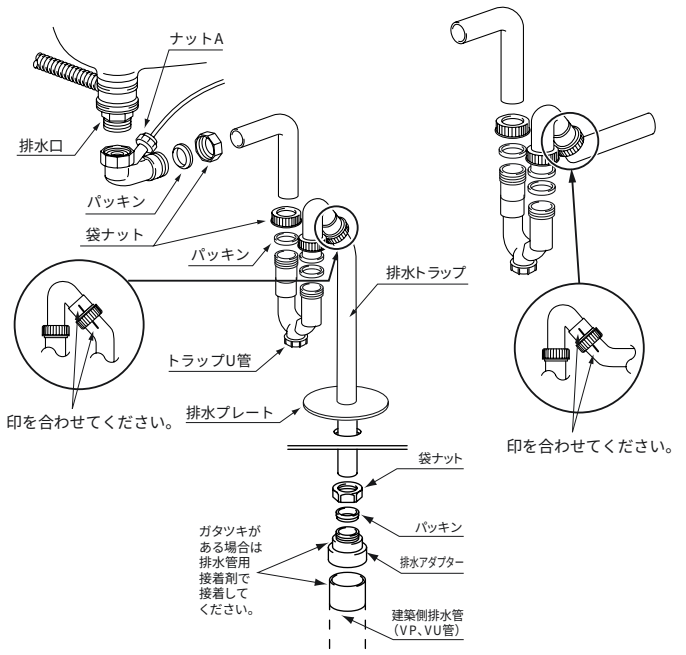
●排水口はあらかじめ洗面器に取り付けてあります。排水口がゆるんでいる場合は、980N･cm｛100kgf･cm｝で締めてください。

> **⚠ 注意**
> **強く締めすぎないようにしてください。**
> ※排水口部分が破損し、漏水を引きおこす恐れがあります。

●排水口以外のナットは手でしっかりと締め付けてください。
●あらかじめ排水口管に袋ナット、パッキンを通し、それからトラップU管を差込部の最後まで入れてください。
※ナットAはあらかじめ取り付けてあります。ゆるんでいる場合は手でしっかりと締めてください。
●建築側排水管に排水アダプターを接着して固定してください。
●排水プレートを排水トラップに差し込み、排水アダプター上部に差し込んでください。
※排水アダプターの上部の袋ナットをしっかりと締めてください。排水トラップのガタつきや、臭気もれの原因になります。

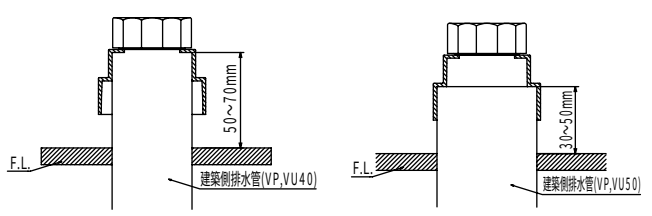
> **⚠ 注意**
> **ナット類は手でしっかりと締め付けてください。**
> ※締付けが不十分だと漏水を引きおこす恐れがあります。

■床排水　**■壁排水**



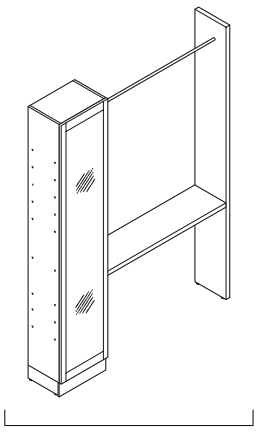
> **⚠ 注意**
> **●排水トラップは、印を合わせて施工してください。**
> ※排水能力が悪くなります。

VP,VU40の場合　VP,VU50の場合

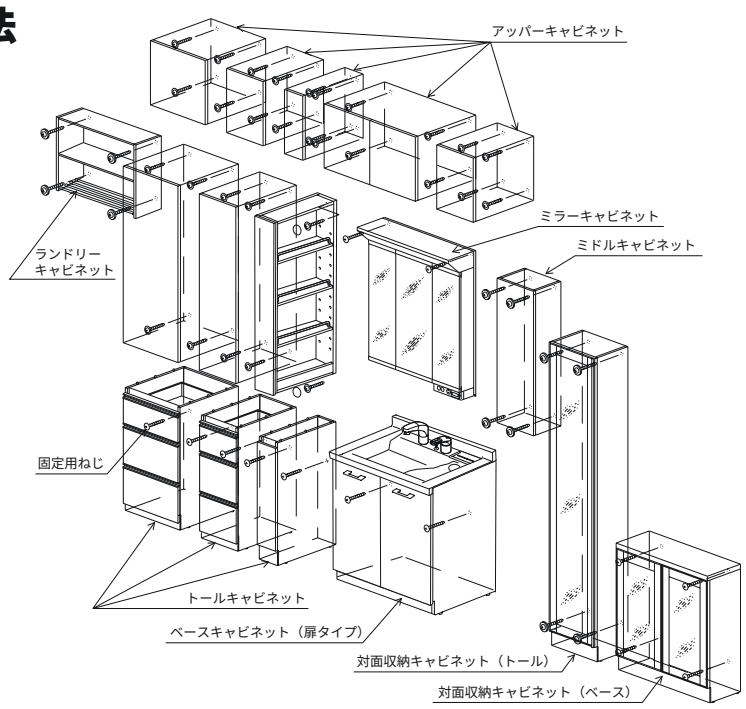


> **⚠ 警告**
> **建築側排水管VP.VU管の立上げ寸法が足りないと接着できなくなります。**

2. 周辺キャビネットの固定方法



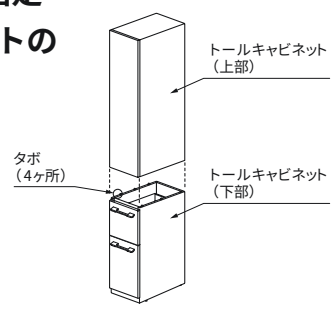
L型収納パック
（「L型収納パック施工説明書」
をご覧ください。）



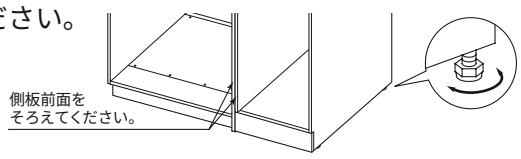
1）キャビネットの固定

■トールキャビネットの固定方法

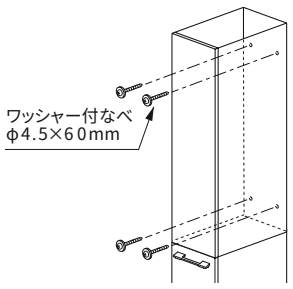
①トールキャビネット（下部）のダボにトールキャビネット（上部）をはめ込みます。



②キャビネットの側板前面を化粧台の側板前面に合わせて設置します。
※側板の前面が合わない場合、またはキャビネットが水平でない場合はアジャスターボルトで調節してください。



③キャビネットの内側より固定ねじ（ワッシャー付なべφ4.5×60mm）で壁に固定します。
※150サイズ上部キャビネットは皿φ4.5×60mm、化粧キャップ、ワッシャーで固定します。

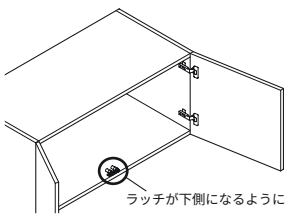


■ランドリーキャビネットの固定方法

キャビネットの上面をミラーキャビネットの上端に合わせて設置し、キャビネットの内側よりねじ（皿φ4.5×60mm、ワッシャー、化粧キャップ）で壁に固定します。

■アッパーキャビネットの固定方法

アッパーキャビネットをミラーキャビネットまたはミドルキャビネットの上に設置し、キャビネットの内側よりねじ（ワッシャー付なべφ4.5×60mm）で壁に固定します。
※プッシュラッチが下側になるように設置してください。



■ミドルキャビネットの固定方法

キャビネットの内側よりねじ（ワッシャー付なべφ4.5×60mm）で壁に固定します。

■L型収納パックの固定方法

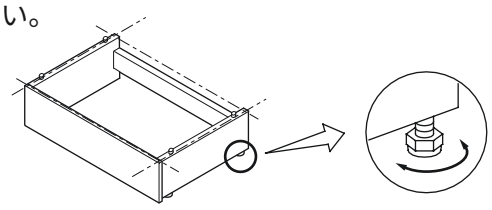
「L型収納パック　施工説明書」をご参照ください。

■対面収納キャビネット（ベースタイプ）の固定方法

① キャビネットを設置します。
※キャビネットが水平でない場合、アジャスターボルトで調節してください。
②キャビネットの内側よりねじ（トラスφ4.0×50mm）で壁に固定します。

■対面収納キャビネット（トールタイプ）の固定方法

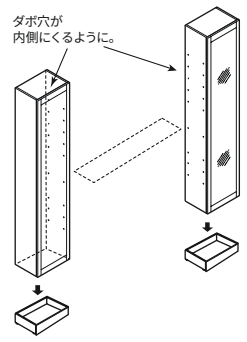
① けこみ部を床に置き、水平を確認します。
※水平でない場合、アジャスターボルトで調節してください。



②キャビネット部の上下方向を確認して、けこみ部に取り付けます。
※キャビネットはL・Rタイプ共通です。プランに応じて上下を反転させてください。

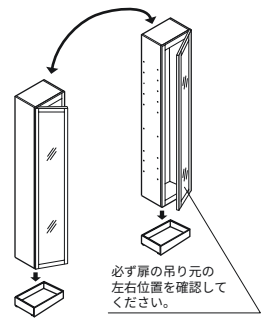
〔棚板（BB-LCV-130）が付くプランの場合〕

※キャビネット部のダボ穴が内側へくるように設置します。

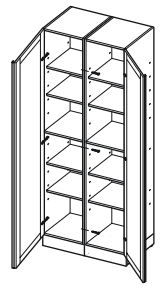


〔キャビネットを単品で使用できる場合〕

※プランにより、扉の開き勝手を合わせて設置します。

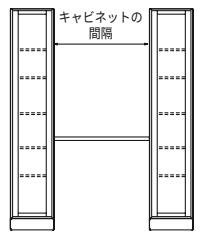


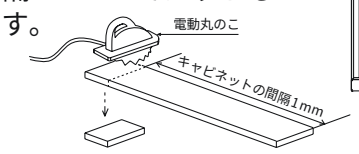
③キャビネットの内側よりねじ（ワッシャー付なべφ4.5×60mm）で壁に固定します。
④トールタイプが2台以上隣するプランで、キャビネット間にすき間が生じる場合は、キャビネット内側から連結用ねじ（トラスφ4.0×25mm）で連結します。（兆番の下方、上中下3か所）



■棚板（BB-LC-T130）の長さ調節

①キャビネットの間隔を測ります。
②棚板をキャビネットの間隔－1mmでカットします。

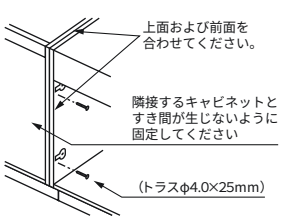




③キャビネットのダボ受けにダボをねじ込みます。
④棚板をダボの上に設置します。

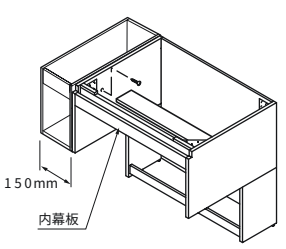
2）キャビネットの連結

隣接するキャビネットを連結ねじ（トラスφ4.0×25mm）で固定します。（蝶番の下方、上下2か所またはレールの上方、上下2か所）



■カラクリスライドタイプの場合

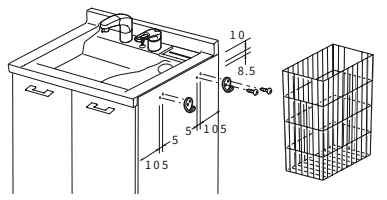
カラクリスライドは引出し奥行きを2段階に変更できます。（8ページ参照）奥行きを変更した場合にも、連結ねじが見えないよう、サイドベース側からねじ固定してください。
※サイドベースの間口が小さく、電動ドライバーが入らない場合は下図に示す、三角金具の下15mmの位置で連結してください。



3. オプション・小物の取付け

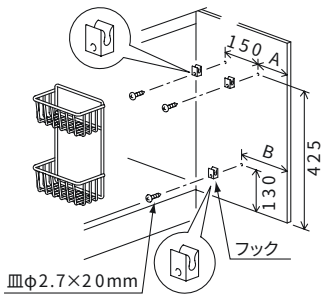
■サイドバスケット（BB-TD1-23）の取付け

サイドバスケットを取り付ける場合は、下図により同梱のフックを固定用ねじ（皿φ2.7×16mm）にて取り付け後引っ掛けます。



■扉用バスケット（BB-EX5）の取付け

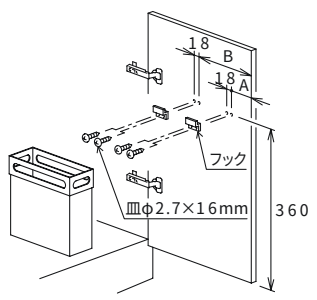
扉用バスケットを取り付ける場合は、右図により同梱のフックを固定用ねじ（皿φ2.7×20mm）にて取り付けた後、バスケットを引っ掛けます。



キャビネットタイプ	間　口	A	B
扉タイプ	全サイズ	125	200
引出タイプ	750･800･1100～1200		
	850～1050	75	150

■ダストボックス（BB-EX4）の取付け

ダストボックスを取り付ける場合は、右図により　同梱のフックを固定用ねじ（皿φ2.7×16mm）にて取り付けた後、ボックスを引っ掛けます。



キャビネットタイプ	間　口	A	B
扉タイプ	全サイズ	130	248
引出タイプ	750･800･1100～1200		
	850～1050	80	198

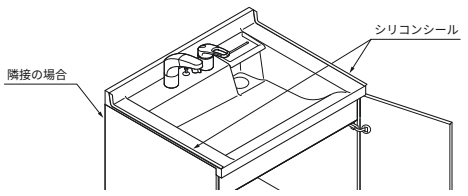
■ミドルキャビネット（埋込タイプ）〈KCD-305PL〉の取付け

■マルチハンガー〈BB-LCV5（750）、（900）、（1000）、（1200）〉の取付け

それぞれ付属の施工説明書をご覧ください。

カウンター周囲のシール

カウンターの左右と壁あるいはキャビネットとの合せ部をシリコンシールします。
※Ｌ型収納パックと隣接する場合は、棚板とカウンターとの合せ部にもシリコンシールしてください。



施工後の確認

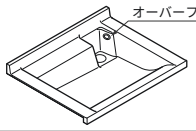
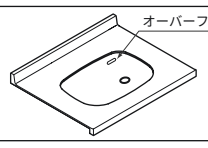
■キャビネット本体の確認

（1）キャビネットの固定ねじが十分に締まっていること、ゆるみがないことを確認します。
（2）キャビネット自体にガタツキ、壁とキャビネットとのすき間がないことを確認します。
（3）キャビネット固定ねじのゆるみ、キャビネットのガタツキがある場合は、必ずねじ位置をかえて取り付け直してください。
（4）扉のふぞろいがある場合は、6ページの「扉の調節」で調節します。
（5）扉表面に養生シート（透明）が貼られている場合、シートをはがします。

■吐水量、排水量の確認

（1）洗面器の排水栓を閉じて水を満水にし、吐水させて洗面器から水があふれないよう（オーバーフロー能力の範囲以内）水側、湯側の止水栓の開閉をして流量の調節をします。

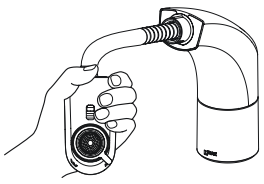
●洗髪シャワー水栓の場合のみ
不用意に全開した場合の飛散を予防するため、全開時6.5L／分程度になるように湯水の止水栓を調節してください。オーバーフローまでの時間が下表になるようにしてください。

カウンター、洗面器タイプ	オーバーフローまでの時間
GS-600N（洗面ボウル一体カウンター） 	約1分40秒
GM-600N GL-9105V（洗面器別体カウンター） 	約2分40秒

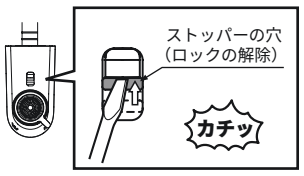
（2）排水栓を開け、水を一度に排出し、トラップ、排水管の各接続部からの水漏れのないことを確認します。

■スレトレーナーの清掃

（1）ハンドシャワーを引き出し、裏向きにしてください。

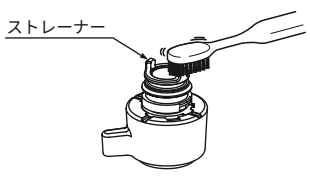


（2）切替ユニットを外して、歯ブラシ等でストレーナーを掃除してください。



（3）切替ユニットを引っ張り、取り外してください。

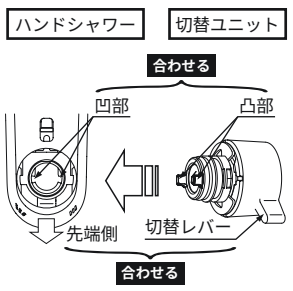
（4）取り外した切替ユニットのストレーナーを、歯ブラシ等で掃除してください。



（5）切替ユニットの向きに注意しながら取り付けてください。

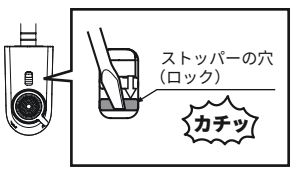
※ハンドシャワーの凹部と切替ユニットの凸部を合わせて、しっかりと差し込んでください。

※切替レバーが、ハンドシャワーの先端部になるようにしてください。

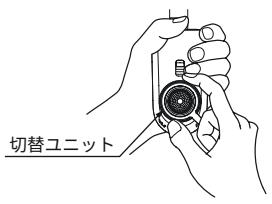


（6）2 の逆の要領で、ストッパーに穴をスライドさせてロックします。

※固くてスライドできなければ、5 に戻り、切替ユニットをしっかりと差し込んでからやり直してください。

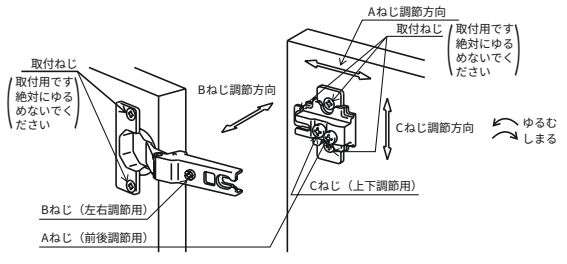


（7）切替ユニットを引っ張って、外れないことを確認してください。

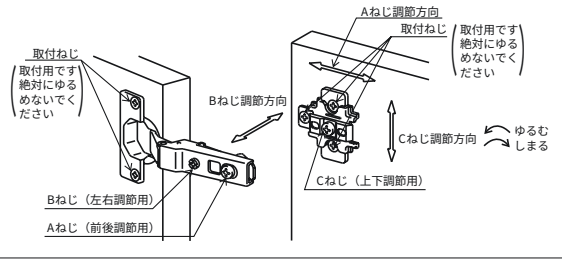


扉の調節（スライド蝶番ねじ固定式、ワンタッチ式）

（a）ねじ固定式（洗面化粧台・サイドベースキャビネット・対面収納キャビネット）の場合

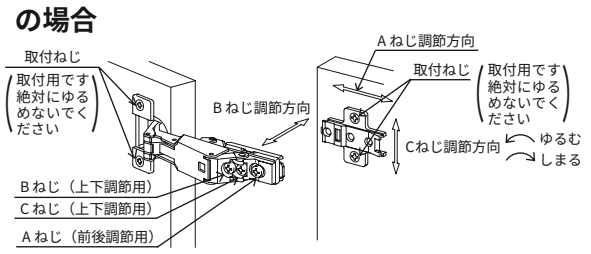


（b）ワンタッチ式（ミドルキャビネット・アッパーキャビネット・トールキャビネット（間口150mm除く）の場合



各ねじの調整量
Aねじ…前方向2.0mm、後方向1.0mm
Bねじ…右へ回す→手前へ4mm、左へ回す→後方へ1mm
Cねじ…上方向1.5mm、下方向1.5mm

（c）ワンタッチ式（間口150mmトールキャビネット）の場合



各ねじの調整量
Aねじ…前方向2.0mm、後方向2.0mm
Bねじ…右へ回す→手前へ2mm、左へ回す→後方へ2mm
Cねじ…上方向2.0mm、下方向2.0mm

⚠ 注意

調整後は必ずAねじ、Cねじが固く締め付けられていることを確認してください。

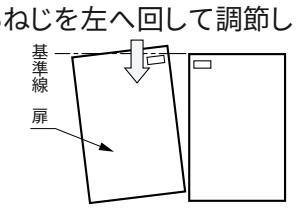
※締付けが不足しますと蝶番がゆるみ、扉の外れ、落下によりケガをする恐れがあります。

●扉の先端が上がっているとき

①扉上方の蝶番のBねじを右へ回して調整します。または扉下方の蝶番のBねじを左へ回して調節します。

②扉を閉めて確認します。

③正しい位置になるまで①、②を繰り返します。

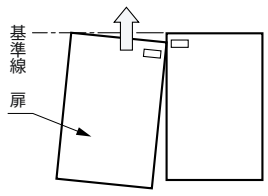


●扉の先端が下がっているとき

①扉下方の蝶番のBねじを右へ回して調整します。または扉上方の蝶番のBねじを左へ回して調節します。

②扉を閉めて確認します。

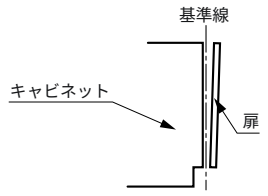
③正しい位置になるまで①、②を繰り返します。



●扉と側板のすき間が上下異なるとき

①扉上方の蝶番のAねじを左へ回してゆるめ、扉を動かして前後の正しい位置にします。

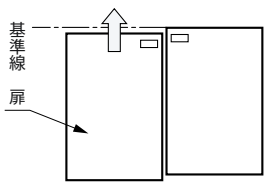
②正しい位置でAねじを右へ回して締め付けます。



●扉の位置が上下異なるとき

①扉の上下の蝶番のCねじを左へ回してゆるめ、扉を上下させて正しい位置にします。

②正しい位置でCねじを右へ回して締め付けます。



アドバイス

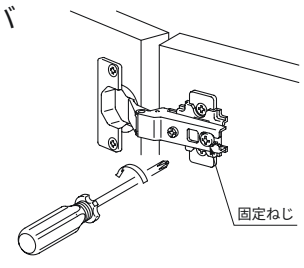
●Aねじ、Bねじ、Cねじは扉を取り付けたままで調節できます。

●2枚扉（両開き）の場合で、片方の扉だけで調節できないときは、左右の扉で交互に調節を行ってください。

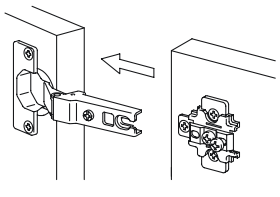
扉の取外し方法

（a）ねじ固定式（洗面化粧台・サイドベースキャビネット・対面収納ベースキャビネット）の場合

①固定ねじをドライバーでゆるめます。

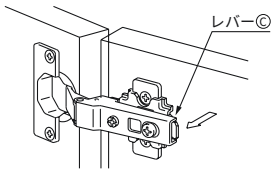


②扉を矢印の向きに引っ張って、取り外します。

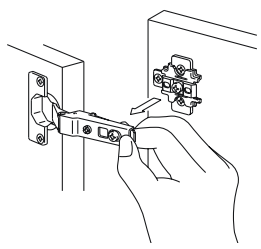


（b）ワンタッチ式（ミドルキャビネット・アッパーキャビネット・トールキャビネット）の場合

①蝶番のレバー　を矢印の向きに引っ張ります。



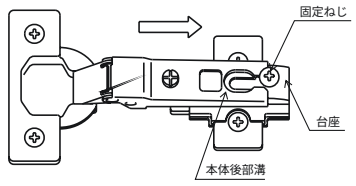
②蝶番を矢印の向きに引っ張って、取り外します。



扉の取付方法

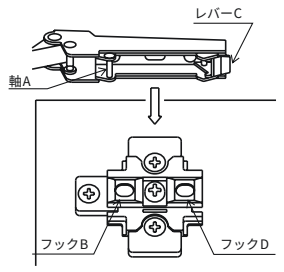
（a）ねじ固定式（洗面化粧台・サイドベースキャビネット・対面収納キャビネット）の場合

①本体後部溝を台座固定ねじに差し込み、固定ねじを締め付けます。

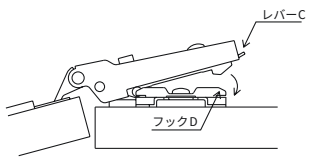


（b）ワンタッチ式（ミドルキャビネット・アッパーキャビネット・トールキャビネット（間口150mm除く）の場合

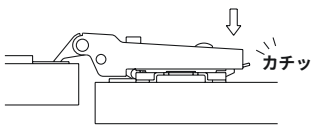
①蝶番の軸　を、フックに引っ掛けます。



②蝶番のレバー　を、フック　に合わせます。

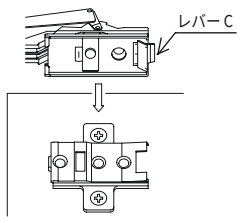


③蝶番を矢印の向きに「カチッ」と音がするまで押します。

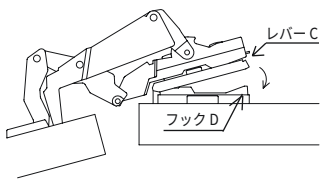


（b）トールキャビネット（ワンタッチ式）の場合

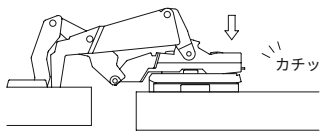
①蝶番のレバー　を矢印の向きに引っ張ります。



②蝶番を矢印の向きに引っ張って、取り外します。



③蝶番を矢印の向きに「カチッ」と音がするまで押します。



⚠ 注意

蝶番が確実に結合していることを確認してください。

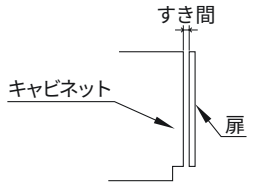
※結合が不十分ですと扉の落下によりケガをする恐れがあります。

プッシュラッチの調節

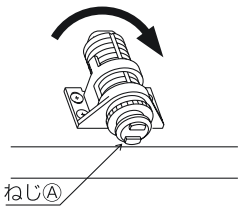
アッパーキャビネット・ミドルキャビネット・トールキャビネットの場合

（1）扉と本体のすき間を確認します。

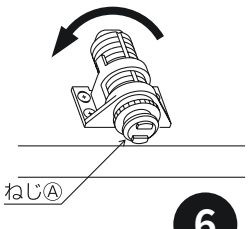
基準値：すき間2mm



●扉のすき間が大きい場合。プッシュラッチのねじ　を右に回します。



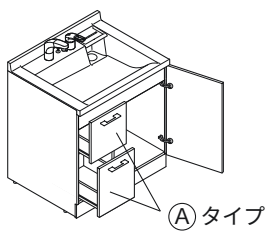
●扉のすき間が小さい場合。プッシュラッチのねじ　を左に回します。



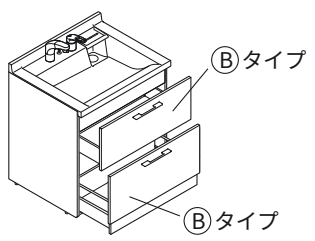
引出しの取付け・取外し・調整方法

引出しの仕様はキャビネットにより異なります。下記で該当タイプをご確認ください。

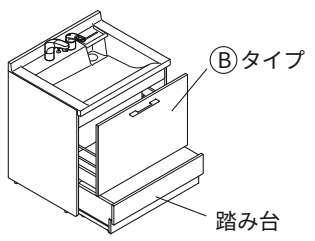
■化粧台本体



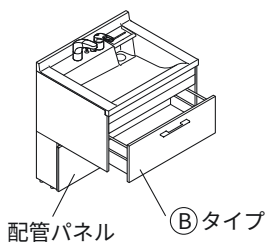
・引出しタイプ



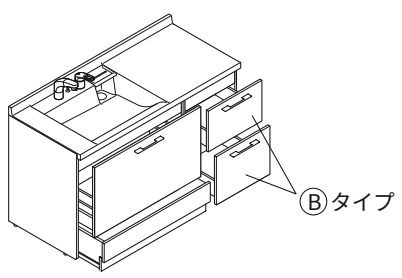
・フルスライドタイプ



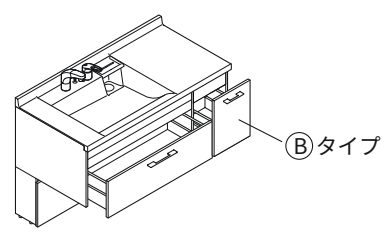
・ステップスライドタイプ



・カラクリスライドタイプ



※サイドベース付の場合



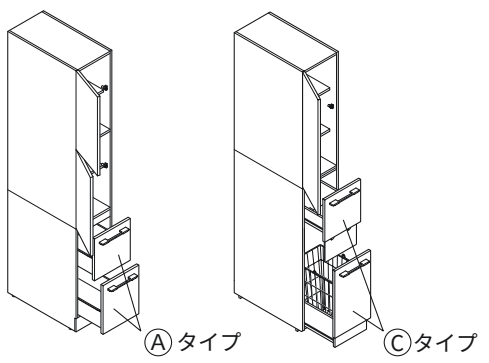
※サイドベース付の場合

⚠ 注意

引出しの収納物を取り出してから、引出し前板の調節を行ってください。

※収納物の重さで引出しが外れ、ケガをする恐れがあります。

■トールキャビネット



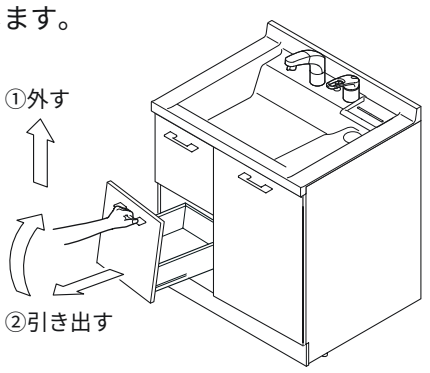
・引出しタイプ　・引出しタイプ

引出しの取付け・取外し・調整方法（Aタイプ）

（1）引出しの取外方法

①引出しを最後まで引出します。

②取っ手を持ち上げたまま、引出しを持ち上げて外します。



（2）引出しの取付方法

（1）と逆の手順で取り付けます。

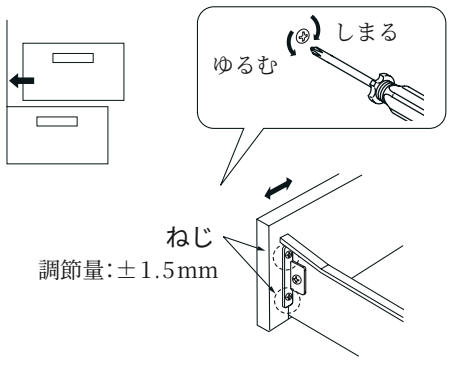
（3）引出しの調節方法

●引出し前板が左右にずれているとき

①　ねじを4ヶ所すべてゆるめます。（左へ回す）

② 引出し前板を左右に動かして調整します。

③ ①でゆるめた　ねじを固く締め付けます。

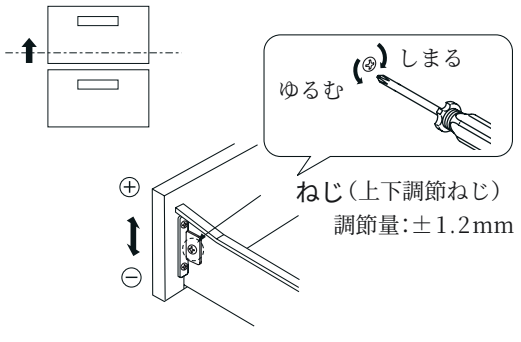


●引出し前板が上下にずれているとき

①　ねじをゆるめます。（左へ回す）

② 引出し前板を上下に動かして調整します。

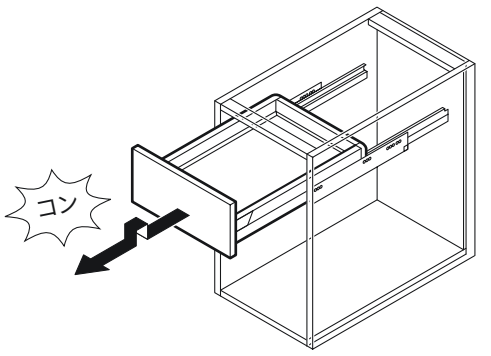
③ ①でゆるめた　ねじを固く締め付けます。



引出しの取付け・取外し・調整方法（Bタイプ）

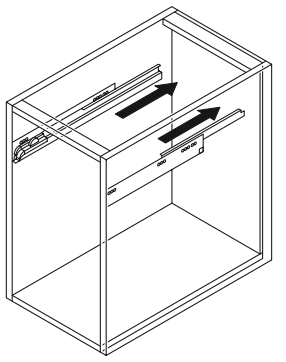
（1）引出しの取外方法

引出しを止まるところまでまで引出し、一度少し上に持ち上げ（コンという音がしてロックが外れます）、さらに手前へ引出します。



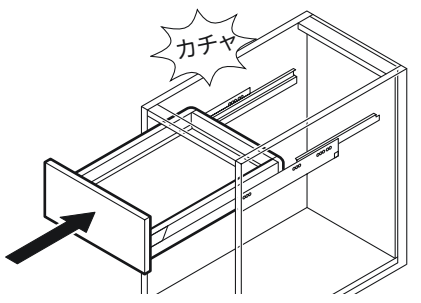
（2）引出しの取付方法

①ユニット本体側の受けレールを奥まで押し込みます。



②引出しを受けレールに載せ、奥まで押し込みます。
その際、カチャと音がしてロックされます。

※取り付けた後は、数回引出しを開閉させ正確に取り付けられている（ガタつき・異音がしないか）ことを確認してください。

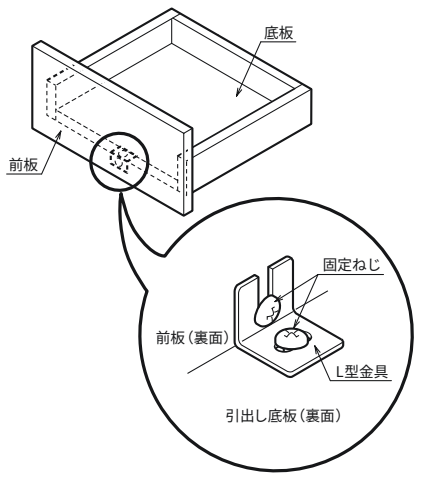


（3）引出しの調節方法

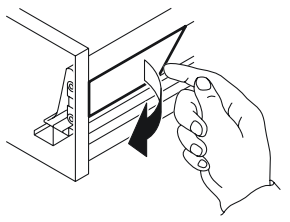
●調節前の準備

引出し前板裏面と引出し底板の間に、L型金具が取り付けてあります。引出し調節（前板の傾き調節以外）を行う際は、必ず固定ねじをゆるめて（金具が動く程度）から行ってください。

また、調節完了後は必ず固定ねじを締め付け直してください。



引出し本体横の化粧カバーを取り外します。



①左右の調節

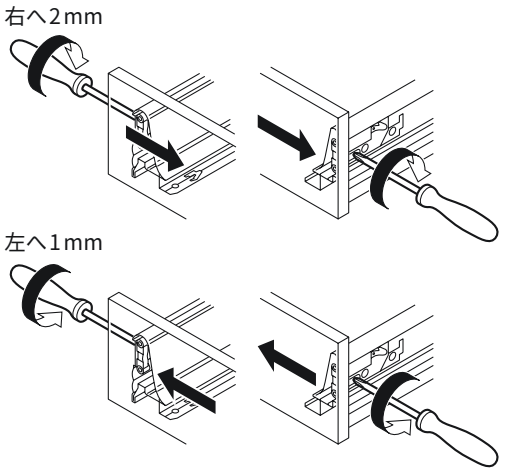
図のように、左右調節ねじを回し調節します。

右へ移動する場合：ねじを右へ回す

左へ移動する場合：ねじを左へ回す

※調節は、引出し本体の左右共に行ってください。

※調節範囲：左右方向へ各1mm（計2mm）程度

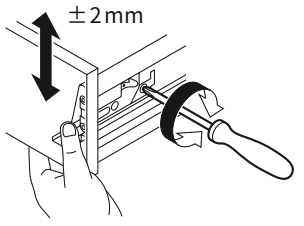


②上下の調節

図のように、ねじを少しゆるめます。

引出し前板の上下位置を調節し、ねじを固く締め付けます。

※調節範囲：上下方向へ各2mm（計4mm）程度



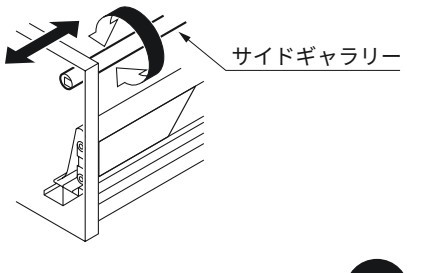
③前板の傾きの調節（サイドギャラリー付き引出しのみ対応可能）

図のように、サイドギャラリー（パイプ部）を回し、前板の傾きを調節します。

前板を手前へ倒す場合：左へ（前板正面から見て）回す

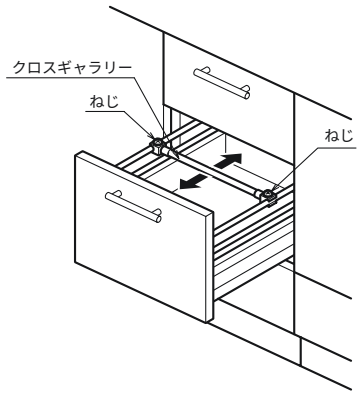
前板を後方へ倒す場合：右へ（前板正面から見て）回す

※サイドギャラリー後方の樹脂部品（グレー色）のねじ部にすき間が残りますが、このすき間は調節しろです。



クロスギャラリーの調整（Bタイプ）

クロスギャラリーを前後方向に移動させる場合は、プラスドライバーを使用し、クロスギャラリー両端（樹脂部）のねじをゆるめます。
※移動完了後に、めじを締め付け直します。

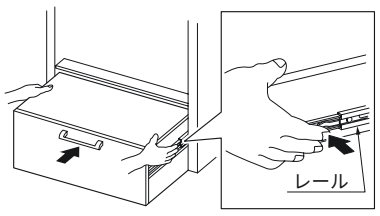


⚠ 注意

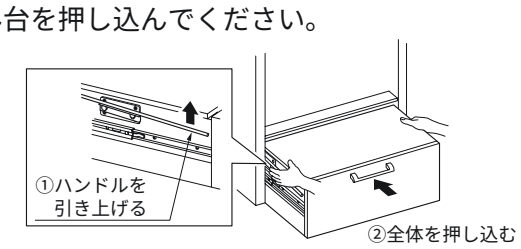
ねじを締め付ける際は、締め付けすぎないようにしてください。
※樹脂製品のため、破損する恐れがあります。

引出しの取付け・取外し・調整方法（踏み台）

（1）引出しの取外方法
踏み台収納の左右にあるレールの青い部分を指で押さえながらさらに手前に引き、踏み台収納を取り外します。



（2）引出しの取付方法
左右のハンドルを引き上げてロックを解除しながら、踏み台を押し込んでください。



（3）引出しの調節方法
●引出し前板を左右方向、上下方向へ調節するとき
①前板調節部の固定ねじ2ヶ所をゆるめます。
②引出し前板を上下左右に動かして正しい位置にします。
③ ①でゆるめた固定ねじを固く締め付けます。

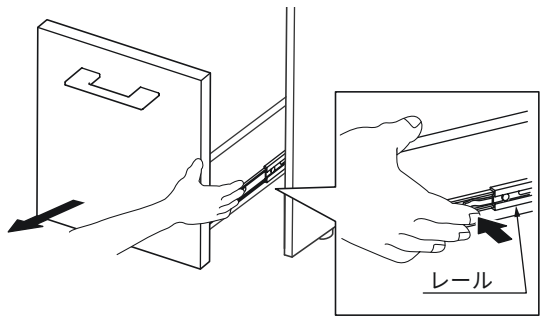
左右方向の調節量：2mm　　上下方向の調節量：2mm

⚠ 注意

調節後は必ず固定ねじが固く締め付けられていることを確認してください。
※締付けが不足しますと引出しが外れ、落下によりケガをするする恐れがあります。

引出しの取付け・取外し・調整方法（Cタイプ）

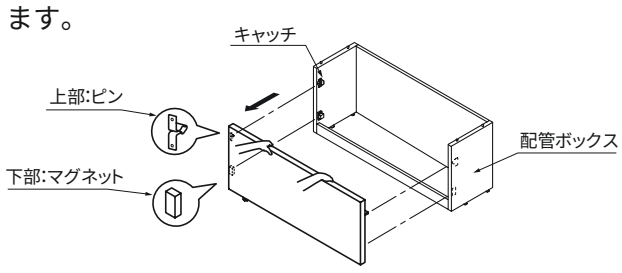
（1）引出しの取外方法
①引出しを手前いっぱいに引出します。
②引出し両サイドのレールの青い部分を指で押さえながらさらに手前に引き、レールから引出しを取り外します。



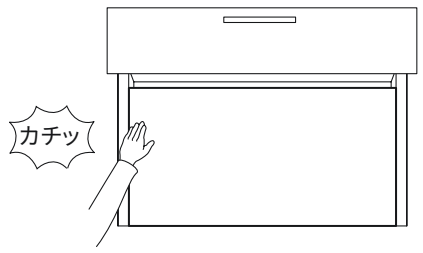
（2）引出しの取付方法
引出しのレールをキャビネットのレールにはめ込み、そのまま引出しを奥まで押し込みます。

配管パネルの取付･取外･調節方法（カラクリスライドタイプの場合）

（1）配管パネルの取外方法
配管パネルの上部を両手で持って、手前に引きます。上2ヶ所のピント、下2ヶ所のマグネットが外れます。



（2）配管パネルの取付方法
①配管パネルの裏面のピン（2ヶ所）とキャビネット側板のキャッチの位置を合わせます。
②配管パネル表面側から、ピンの上を手で押し込み、キャッチにピンをはめ込みます。
※キャッチにピンがはまり、「カチッ」と音がしたことを確認してください。

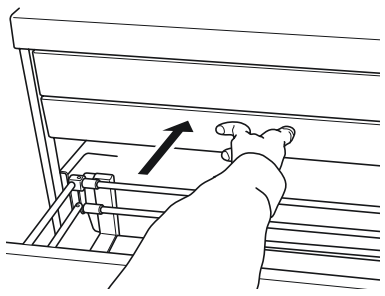


⚠ 注意

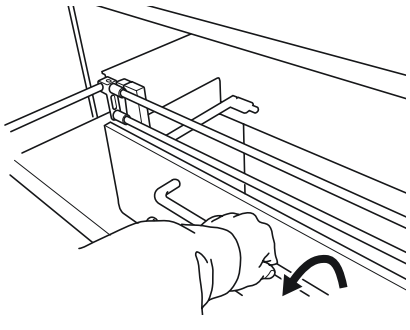
配管パネルの取付け・取外しの際は、無理な力で引っ張たり、たたいたりしないでください。
※キャッチやピンが破損し、取付け・取外しが困難になる恐れがあります。

引出しの奥行き変更方法（カラクリスライドタイプの場合）

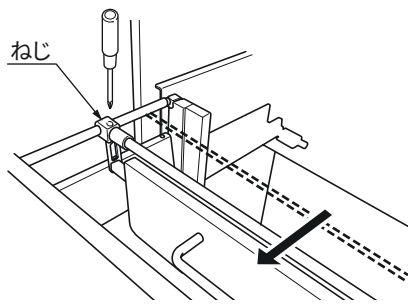
(a) 引出しを奥に収める
①引出しを手前に引出し、幕板を折りたたみます。



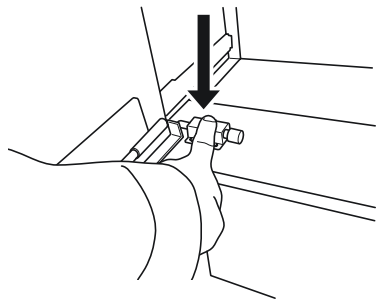
②引出し底のバーを持ち上げ、底板を垂直に立ち上げます。



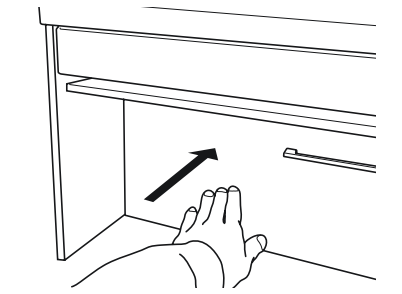
③引出しのクロスギャラリーのねじをドライバーで緩め、ギャラリーを手前に移動させて、ねじを締めます。



④キャビネット本体内部のロックボタンを押し、引出しレールのロックを解除します。

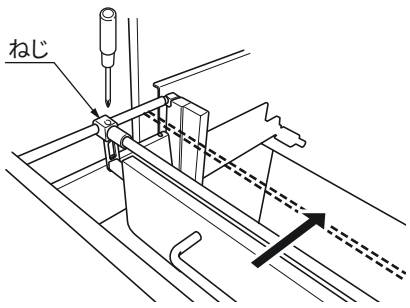


⑤引出しをキャビネットの奥へ押し込みます。

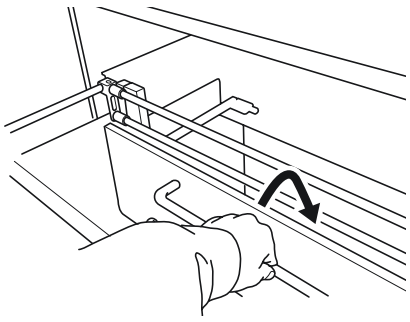


(b) 引出しを手前に出す
①引出しを手前に引き出します。

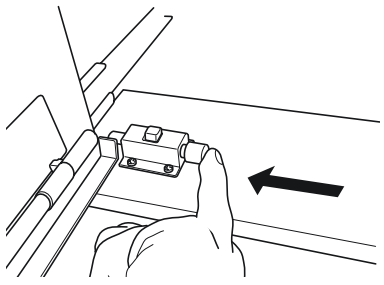
②引出しのクロスギャラリーのねじをドライバーで緩め、ギャラリーを奥に移動させて、ねじを締めます。



③引出し内部のバーを持って、底板を奥に倒します。



④キャビネット本体内部のロックの黒い部分を押してロックをかけます。



⑤幕板手前に倒し倒します。